



今回のガイド

あべ たらう
阿部 太郎さん

山元地区出身。実家の農業を継ぐため3年前に東京からUターン。現在は半農半デザイナーの生活を送っている。

「どんな都会に住んでいても、車を30分走らせれば森でリフレッシュできる。週末を緑の中で過ごせるなんて素敵でしょう」。もう10年以上前になるが、ドイツ人の友が誇らしげにそう言った。当時、東京の雑踏の中で暮らしていた私には、その言葉は衝撃的で、ずっと記憶に引っかかっている。きつと今ならこう答えるだろう。それなら庄内だって負けていないよ、と。

みどり鮮やかな夏の里山

今回の訪問先は旧平田町。酒田の市街地から20分ほどで着く、

緑あふれる里山の入口だ。図書館や生涯学習施設などが並ぶ「ひらたタウンセンター」でガイドの阿部太郎さん、久美さんと落ち合った。そこからひたすら山奥へと車を走らせること25分。

山あいには拓かれた「田沢川ダム」に到着した。満々とたたえた水は、ぐるりと囲む山林のフレッシュグリーンと空の青が混ざったような美しい青緑色に輝き、眺めているだけで気持ち安らぐ。「平田は過去に何度も洪

水に見舞われてきました。中でも昭和46年の豪雨で甚大な被害を受けたことから、このダムが造られたんです。毎年10月にはダム祭りが行われ、芋煮やカニ汁の屋台が並び、多くのお客さんで賑わいます」。太郎さんも祭りの日には屋台を出して訪問客をもてなすという。「普段は女性一人でダムに行くと地元の方に心配されますが、私の好きな場所のひとつです」と久美さんが爽やかな笑顔で教えてくれた。

外の目線で気づいた暮らしの中の宝物

田沢川ダムの脇を通る道は、山向こうの鮭川村とつながっている。「昔から行商人が行き来したり、農閑期になると山元地区の人たちが鮭川の羽根沢温泉で湯治したりと交流がありました。今でも年に1回、両方の住民が集まって村と市の交流会があるんですよ」と太郎さん。久美さんいわく「本当にこの道で大丈夫なのかと不安になる」ほど険しい山道だが、温泉に通じていると聞くと心惹かれる。後ろ髪



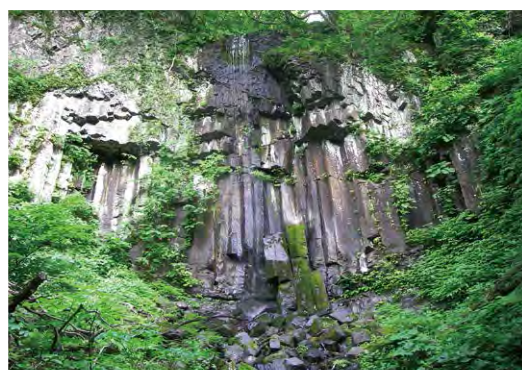
長堀牧場で牛のえさやり体験。迫力に少々及び腰…。



今回は太郎さんの奥様、久美さんも同行。出身は東京の渋谷区！



岸壁の珍しい風化現象「オニオンストラクチャー」。



のんびり平田 里山あるき、

第8回 庄内みどころ再発見

Supported by 庄内広域行政組合

酒田の中心部から車を走らせること20分、旧平田町には昔ながらの田園風景が広がります。今回は南部の山元地区、小林地区を散策しました。

耳より平田かわら版

アクティビティ充実!
自然を感じるスポットをご紹介します



B&G 海洋センター ヨットカヌー場

緑に囲まれた中で気軽にカヌーやヨットを楽しめる! 指導員が常駐しているので初心者でも安心。団体は要予約。
 5~9月の日曜と祝日、小学校夏休み期間中の土曜
 [利用時間 9:00~16:00]
 図B&G海洋センター事務局 ☎0234-52-3284



十二滝

飽海三名瀑のひとつで大小12の滝が連なる。夏は涼しく、秋は紅葉が楽しめる。経ヶ蔵山~十二滝の登山はガイドをお願いできる。
 図認定NPO法人ひらた里山の会 ☎080-2833-1320



水辺の楽校

子どもが川遊びを楽しめるように整備された河川公園。夏には東京などからの自然体験の受け入れも。
 図認定NPO法人ひらた里山の会 ☎080-2833-1320



遊ぼうよー♡



産直の名はめんたま畑!



読み方は「おにょぼう」!



森の家

高台にあるおそば屋さん。地元産のそば粉で打ったそばと、喉越しのよい麦切りの両方が楽しめる「二味森(500円)」が人気。
 図9:00~16:30
 休毎週月曜日、1/1~3
 図☎0234-54-2212



長堀牧場

乳しぼりやバター作り、乳牛のお世話などの酪農体験ができる。予約制。
 図長堀仁実 ☎0234-54-2415



探してみよう!

町のあちこちに飾られている、旧平田町出身の彫刻家・石黒光二さんの作品。全部で15体あるそうです。



編集・文||松本典子 写真||間真由美
協力||平田総合支所

そして、目当ての小林不動杉へ。3本の株立ちで根回り13・2メートル、高さ約35メートル、樹齢は推定800年の巨木がそびえ、根元には湧き水。久美さんが気に入るのも納得の、圧倒的な生命力だ。根元の不動堂の建立は江戸時代とされるが、当時の人も同じような感動を抱いてここに建てたに違いない。
 ダムも柵田も茅葺き民家も、先人たちが自然と共生しながら造り上げたものばかりだ。里山の美しさが未来にも引き継がれていくようにと、強く願った。

知る人ぞ知る名所、小林の不動杉へ

最後は久美さんのお気に入りだという「小林不動杉」を目指すことに。小林の集落に入ると、茅葺きの民家が目に飛び込んできた。周辺の雰囲気と調和していて、映画のセットに迷い込んだような不思議な感覚にとらわれた。持ち主の方は今も茅葺きの手入れをしながら住んでいるそうだ。昔ながらの暮らしが残されていることに、嬉しさがこ



小林温泉の周辺には在来のニホンタンポポが群生。ガクが反っていないのが見分けるポイント。

み上げた。続いて現れたのが、「小林温泉」。小さな平屋建ての入口に木の看板が掲げられ、あたかも公民館のような風情がある。中では地元のおばあちゃんたちがワイワイお昼ごはんの最中で、まさに公民館そのもの。地元の人々の暮らしが垣間見える気取らない温泉だが、泉質は単純硫黄泉でリウマチや糖尿病、皮膚病、婦人病などに効力があるという。宿泊も可能で、渓流釣りの拠点として長期滞在するお客さんもいるそうだ。



森の家でランチ。「庄内の人は『つる、ふわ、とろ』の食感がキーワード」が久美さんの発見。